

汗を流そう、収穫の喜びを味わおう！

夢を育む農園をお借しいたします。

黒埼町町民農園の募集受付は12月2日から行います

町では来年度から町民農園を開園します。農業を営んでいない皆さんに、土にふれ、野菜や花を栽培していただき、農業の魅力を理解していただくよう開園するものです。

12月2日からこの町民農園の申し込みを受け付けます。

【手続き】町民農園を借りたい人は12月2日から27日までの間に役場農政課（役場分館3階）へ申込書を提出します。申込書の用紙は農政課窓口にあります。抽選会は来年度1月19日に農村環境改善センターで行います。

【使用料】1年間1平方メートル150円です。たとえば52平方メートルの区画を借りる場合なら1年間7800円となります。支払いは毎年4月30日までに町へ。



「町民農園の概要」

場所は金巻の浄水場に隣接しており、新潟交通電鉄の木場駅から徒歩3分、すぐ近くに魚釣りのできる池もあります。農園内には31台が駐車できる駐車場、トイレ、給水場、農機具をしまっておけるロッカーなどが完備されます。農園の総面積は3073・5平方メートルで56区画に分けられています。

「無農薬・有機栽培の農園です」

園内は無農薬です。安心して栽培作業ができ、実った作物も安全な無農薬野菜です。

実際のやり方としては、土壌酸度促進剤と生物系土壌改良剤

園内は無農薬です。安心して栽培作業ができ、実った作物も安全な無農薬野菜です。

園内は無農薬です。安心して栽培作業ができ、実った作物も安全な無農薬野菜です。

作物の残りなどは生物系土壌微生物で有効分解します。

元気をよく育てることによって病気にかかりにくい。

病害虫のきらいなガスを出します。

※町民農園に関するお問い合わせは、役場農政課（役場分館3階）☎377-3101（内線355）まで。

秋の定期外検診

職場検診のない人を対象に次の検診を行います。結果はどちらも3週間後に精密検査の必要な人にだけ連絡します。検診料は当日、会場で受け付けます。

【婦人検診】11月6日(水)午前9時～10時30分 函農村環境改善センター 検診料400円 ※検診当日は体を清潔にしておいてください。

【胃腸検診】11月7日(木)午前8時～10時30分 函農村環境改善センター 検診料500円 ※前日の夕食は軽くすませ夜8時以降は食べたり飲んだりしないでください。当日は朝食をとらず、水・お茶・タバコなどいっさい口にしないでください。

なお、30歳未満のかたで検診を希望する場合は実費を徴収します。婦人検診：2678円、胃腸検診：3656円

☑ 役場保健衛生課

りたい。▼従業員の教育プログラムを作りたい。▼研修用ビデオテープを作りたい。▼従業員に教育訓練をするので能力開発給付金を受けたい。▼教育訓練施設について知りたい。

理容・美容・クリーニングはこのマークのついたお店で。確かな技術、まかせて安心、美しく清潔に、をお約束します。☑ 函新湯環境衛生営業指導センター (☎283-5900)

飲食、理容、美容、旅館、クリーニング増改築。設備に低利で長期な資金を融資しています。☑ 函新湯環境衛生営業指導センター (☎283-5900)

仕事と家庭責任を考えると。ウム 11月6日(水)午後1時30分～4時30分 郵便貯金会館(新潟市川岸町2丁目) ☑ 育児休業等に関する法律の概要説明、講演「育児休業法の成立一現状と課題」、パネルディスカッション「ゆとり時代の働き方」☑ 函新湯婦人少年室 (☎266-0047)

11月 職業能力開発促進月間

です。新湯職業能力開発センター(☎283-2144)では次のような相談に応じています。お気軽にご利用ください。▼職業能力開発に関する情報を知

黒埼町の今音

執筆 宮田栄門

善久青年団の音楽活動(二)

昭和二十三年、善久青年団の楽団は

「白バラ楽団」と名のり活動を開始。

昭和二十一年三月ごろ、善久(当時は中蒲原郡野木村西楚川新田)の若者、鷺尾末次、石橋虎一、白川昭悟、市村一郎らが中心となって楽団をつくることになった。

昭和二十一年八月、長かった戦争も我が国の敗戦で決着がつき、そのつげは国民の一人ひとりに負わされた。そのため国民生活は疲弊困窮した。こうした暗い世相の中、楽団をつくって少しでも村を明るくし、活気づけようというのが彼らの計画だった。

しかし、当時の経済状態では、農家の子弟たちにアコーディオンやギターなど高価な楽器を購入する金がなかった。楽器を手に入れるには労力作業によって収入を得るほかないと考え、彼らは彼ら休みや盆休みなどの休日返上して働いた。たまたまあった飛行場跡地の掘り返し整地作業、田打ち、稲刈り、その他あらゆる農作業の請負いを、金になればどんな難儀な仕事でもやった。



写真上/発足当時の善久青年団の楽団員と結成に協力した青年団員(昭和23年春撮影)。下/武樋家の薬倉庫に勢揃いした「白バラ楽団」団員。(昭和23年暮れ撮影)

これに共鳴した青年団の白川五郎、阿部健、白川末三郎、増子寅一、増子寅次、田村留吉らも彼らといっしょに働き、資金集めに協力した。

こうして、彼らが待望のアコーディオンやギターを購入することができたのは、二十三年二月ごろだった。(アコーディ

オンは当時二万円くらいで、若者の初任給は二、三千円くらいだった)

トランペットとドラムは、戦時中、青年団が兵隊送り用に使ったものを、どこかの家の作業場から探してきた。バイオリンは白川昭悟が自家から持ってきた。これで一応楽器の数は揃った。(ドラムとはいっても大太鼓小太鼓だけ

でシンバルもなく台も木の手製だった)アコーディオン酒井俊二、トランペット石橋寅次、ギター鷺尾末次、バイオリン白川昭悟、ドラム市村一郎、という形で善久青年団の楽団は誕生した。

練習は鷺尾の実家鈴木家や白川、石橋らの作業場を借りてやった。楽団をつくる計画を立てた時には楽譜を読める者は一人もいなかったが、暇を見ては集まり、独学で勉強に励んだので、楽器を購入した時にはみんな一応読めるようになっていた。

実際に楽器を手にしてみると、なかなか思うように演奏ができなかった。練習は初め難航したが、そのころ大野に始まっていた「大野青春楽団」

の渡部貞春や山際和夫らとときどき指導に来てくれ、大いに励みになった。またバイオリンのうまい傷夷軍人の斎藤正次さんが奥さんに手を引かれ、彼らの練習に加わっていた。

半年くらい練習して一応自信がつくと、「白バラ楽団」という名をつけ、昭和二十三年八月ごろ、武樋家の薬倉庫を借り、部落民の慰安を兼ね楽団の発表会を開いた。発表会は大盛況で、会場は身動きもできないほど大入り満員だった。司会は武樋繁雄が務め、歌手を阿部健や市村一郎がやり、舞踊では斎藤静江、市村イネ、湊ハツイ、白井チエたちも登場した。

部落の某氏が小さなザルに長い竹の棒をつけて観客の間を回って祝儀を集めてくれ、かなりの収入となった。

「白バラ楽団」の全盛期は二十三年から二十五年の三年間と短かった。しかし、楽団のメンバーたちは青春のエネルギーのはけ口を音楽に求め、その活動にのめり込んだ。

この活動期間中、「白バラ楽団」はいろいろな場所へ呼ばれて演奏した。(なお、当時音楽会や慰安会はみんな青年団行事として行われていた。七穂の学校へ地元青年団に頼まれ行ったのは昼間だった。

たが、ほかはたいい夜ばかりだった。また、黒鳥の小学校に出演した時は、帰るころになって大雨となり、夜中の道を楽器を積んだりヤカーを引き、びしょ濡れになって歩いて帰ったこともあるという。取材協力・鷺尾末次、白川昭吾、白川繁雄

善久老人会音楽会員名簿
▼男・白川繁雄(バイオリン・78) 武樋繁雄(歌・70) 酒井俊二(アコーディオン・62) 鷺尾末次(ドラム・64) 西山正雄(ギター・65) 小林徳次郎(歌・62) 滝沢誠吾(大正琴・67) 小林精二(踊・77) ▼女・宮本寛(歌・84) 白川代香(カシオトーン・74) 浅間シゲ(大正琴・80) 池田ミエ(大正琴・62) 斎藤モト(踊・68) 戸川静(踊・73) 白川マツエ(61) 水野ヤス(71) 細野シン(63) 井村カツイ(72) 松田シズイ(69) 塚田ハルミ(71) 浅間ミヤ(68) 内山キヌ(62) 阿部キヨ(77) 高橋キヨシ(65) 吉田スイノ(79) 橋立キヨシ(81) 荻野スミ(70) 大堀ハツイ(74) 遠藤タカ(67) 永田ムツ(70) 小林ツヨ(75) 松下キノ(73)
※カッコ内の数字は現在の年齢。平均年齢七十歳。会の活動については、先月号を参照ください。